

2025 フクシマ連隊キャラバン報告書

全港湾東北地方八戸支部 田名部悠基

私は、4日間福島連隊キャラバンに参加させて頂きました。2日目の午前中に、東日本大震災・原子力災害伝承館に向かう道中、大熊町、富岡町、双葉町、楡葉町、などを回りました。この一帯は福島第一原子力発電所から30キロ圏内に位置していて、津波の被害もあり更地が多く目につきました。道路や防波堤は新しく作られていましたが、まだまだ家や商業施設などは少なく、人が住めるようになるにはまだまだ時間がかかると思いました。伝承館では津波の被害で、大きく曲がった標識などが展示してあり津波の力はいかに強いものか改めて実感しました。午後は請戸小学校に行き、当時のまま残っている建物を見て津波の来た高さが小学校の一階部分を丸々飲み込む高さで衝撃を受けました。また、津波は来ないと思い込んで避難が遅れてしまった人もいることを知り、思い込みは良くないと思いました。東京電力廃炉資料館では1号機から4号機の現在の状況を見られ、廃炉にするには時間もお金もかかり、取り除いた燃料デブリは、保管はできたとしても処分できないので原子力は安全ではないと思いました。3日目は、帰還困難区域の津島地区に行きました。放射線の影響で、人が住めず14年経った今でも家にはバリケードや帰還困難区域の看板があり復興は進んでいるとは思えませんでした。元々津島地区の住人の人からの話を聞いて、当時のコミュニティがなくなり人と人の繋がりが失われる辛さを知りました。

4日目は、福島駅前です署名、街宣活動をしました。署名活動をしている時、ほとんどの人は原発に関心が薄れていっていると思いき、他人事ではないと思いました。この4日間を通して、東日本大震災の被害もあるが、福島第一原発事故が与えた被害は二度と戻ることのない物だと思いました。メディアでは、新しい建物などを写して復興は進んでいるのだと思っていましたが、復興が進んでいるのはほんの一部で、双葉町や津島地区などを見て、あと何十年と復興には時間がかかるのだと思いました。福島連隊キャラバンに参加して学んだことを周りの人や次の世代に伝えて、このような活動を通して、興味、関心を一人でも多く持ってもらい、忘れてしまわない様これからもこのような活動に取り組んでいきたいと思いました。